



実川たかし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043(227)7411

山武郡特集

12月県議会一般質問

昨年4月の県議選で山武郡選挙区から初当選を果たし、県政へ活躍の舞台を移した実川隆(じ) つかわ・たかし) 県議は、12月定例議会一般質問に初登壇しました。実川県議は、町議時代から空港問題に深く関わってきたことから、成田空港の年間発着枠30万回への拡充に伴う地域の環境対策を真っ先に取り上げました。

この中で、民家防音工事の恒久化について、実川県議が、30万回の合意に至った住民の思いに報いる環境対策を、と強く訴えた結果、森田知事から「年度内を目途に結論を得たい」との前進した回答を引き出しました。その他、農林漁業問題、地域の道路問題など、実川県議の主な質疑を特集しました。



県議会本会議場の壇上に立つ実川隆議員

民家防音工事の恒久化

知事、年度内を目途に結論

住民の思いに報いる環境対策を!

実川議員 年間発着枠30万回への拡大については、地元住民の多くの意見や思いは、生活環境の悪化に対する懸念はあるものの、成田空港をりっぱな空港にしたこととあり、まさに、地域の発展と騒音などの被害のはざまに「苦渋の選択」でした。

このように住民の思いに報いるためにも、県も空港会社とともに、空港づくりは地域づくりとの基本理念のもと、騒音下住民の生活環境を守っていく上でも、是非とも環境対策の

合意事項は実現しなくてはならない課題です。特に、住宅防音工事の恒久化という考え方は、成田空港の騒音対策の歴史の中でも画期的なことであると評価しております。

30万回の合意に際して、空港会社から提示のあった民家防音工事の恒久化について、関係機関との協議はどうなっているのか。

森田知事 民家防音工事の恒久化については、これまで空港周辺市町をはじめとする関係者間で、成田空港周辺地域共生財団の存続問題も含め協議を重ねてまいりましたが、本年11月に基本的な事業スキームについて合意が得られ、現在、事業の実施に向けて細部の調整を進めているところです。

県としては、成田空港の利用促進を図る一方で、騒音下住民の生活環境を保全していくことは極めて重要だと考えております。年度内を目途に結論を得たいと考えているところです。

30万回実現の具体策

実川議員 空港会社は、平成26年度に30万回の実現を目指しているところですが、今後、県はどのように取り組んでいくのか。

森田知事 県は、昨年の30万回合意以降、周辺市町や空港会社とともに、内閣ネットワークの充実を図るため、国内線の誘致に取り組んできたところであり、10月にはスカイマーク社が新規に成田空港を拠点に、成田・旭川線を開通するなど、利用促進に向けて一定の成果を上げたところですが、

再質問で念押し

実川議員 ぜひとも30万回に向けて、県としても後押しをしていただきたい。LCCもさながら、これから乗り入れを待っている航空会社の誘致への取り組みも、よろしくご協力をお願いしたい。空港の発展なくして、千葉県の発展はない

個性ある山武を創る

●山武郡や県政のご相談、ご要望をお聞かせください

実川たかし 県事務所

〒289-1732 TEL.0479-82-2688
山武郡横芝光町横芝515 FAX.0479-82-2799

県内の地域間格差是正を訴え

津波から守る保安林、砂丘の整備

大規模集出荷貯蔵施設の更新も

保安林整備

実川議員 九十九里海岸の保安林は、津波の被害を軽減する役割も期待されています。しかし、現状は今回の東日本大震災による津波によって、樹木がなくなっている場所も多く、津波の被害軽減に大きな役割を果たした砂丘も、一部崩れたままです。地域の安全・安心のため、被害を受けた保安林の整備をどのように進めていくのか。

農林水産部長 九十九里海岸の保安林のうち、旭市や匝瑳市など5市町で津波の侵入があり、樹木が倒れたり砂丘が損傷するなど、被害面積は約25ヘクタールとなっています。

県では、津波の被災状況や軽減効果の検証を進め、市町村と連携して、減災対策に配慮した整備手法を検討しているところです。具体的には、砂丘の機能強化、樹木が地中に根を張って津波への抵抗力を強めるための盛土、広葉樹の導入による植栽樹種の拡充などが有効とされており、早期の保安林機能の回復に取り

組んでまいります。

砂丘の整備

実川議員 津波被害の軽減を踏まえた砂丘の整備はどのように進めていくのか。

農林水産部長 海岸保安林の砂丘は、海岸からの風力を弱めたり、砂の移動を少なくすることで植栽木の育成環境を改善する機能を持っており、今回の津波では砂丘が津波の侵入を防いだ事例も確認されています。しかしながら、砂丘の高さが不揃いの場所では、低い個所に津波が集中して侵入し、砂丘が損壊するなど被害が発生しております。このため、砂丘全体が一体



議場の自席から再質問する実川県議

津波がきても耐えられるようなものにしていただきたいと要望します。

今の砂丘を、もっとボリュームアップして、車も上を走れるような強固なものにすることも考えられます。これは単に、保安林の整備という範疇を超えてしまうかもしれませんが、ぜひとも他の部局とも連携して津波に強い砂丘の整備を進めていただきたいと思っています。

野菜産地の維持拡大を

実川議員 私の地元の山武地域は、県下屈指の野菜産地となっています。北総地域でのニンジンなどの露地野菜産地では、JA等の生産者団体が大規模集出荷貯蔵施設を整備し、寒い冬の洗浄などの水仕事や夜なべ仕事だった出荷調整、選果作業を一手に引き受け、労力不足や高齢化対策に大変大きな役割を果たしているところですが、

要望

先ほどの答弁にもあったように、保安林や砂丘があったおかげで、九十九里地域の住民への津波被害はかなり食い止められたわけです。津波被害の軽減を踏まえた砂丘の整備については、「かさ上げや新たな砂丘を造成する」との答弁をいただきましたが、もし大きな

しかしながら、一部の集出荷施設では、選果機械の老朽が進んでおり、大変憂慮すべき状況にあります。老朽化した大規模集出荷施設の再整備について、県はどのように取り組んでいくのか。

農林水産部長 生産者の出荷調整や選果労力を軽減するため、大規模集出荷施設は、野菜産地の維持拡大の一翼を担う重要な役割を果たしています。一部は施設更新が急がれていると認識しています。

しかし、大規模集出荷施設の再整備には、これまで活用してきた国の助成事業が縮小される中、産地の要望に応えきれないことから、県では国に対し、関連予算の拡充を要望したところです。今後は、国の動向を注視しながら、関係市町村との連携のもと、効果的な再整備ができるよう努めてまいります。

決算審査特別委を開催

実川議員 県議が務める決算審査特別委員会は、10月末から11月初めにかけて、合計6日間の日程で開かれ、平成22年度決算について、各部局ごとに決算内容の審議を行いました。審査の結果、いずれも承認されました。

圏央道の早期開通を要望！

実川議員 圏央道の大栄から横芝間について、現在の状況と今後の県の取り組みはどうか。

県土整備部長 大栄から芝山間の18・5キロ区間については、事業の進展を図るため、現在、国で測量や構造物の設計を進めるとともに、関係機関との協議、調整を行っているところです。

今般11月21日に開催された政府主催の全国知事会議

銚子連絡道路の進捗状況

実川議員 銚子連絡道路2期区間の進捗状況と今後の見通しはどうか。

県土整備部長 本区間は、国道126号横芝光町から匝瑳市までの延長5キロ区間を整備することとし、平成19年度から着手してまいいます。現在、横芝光町区域から順次、用地取得を進めているところですが、平成23年9月末の用地取得率は、面積ベースで約19%



総合企画水道常任委員会で熊本県交通局を視察する実川県議(右)

要望

本格的な事業に着手し、1日も早い開通が図られるよう強く要望します。